

サマーワークショップ2025実施報告書

テーマ：学校って何をするところ？

—大人みんなで考える「これからの中学校が大切にしたいこと」—

日 時：令和7年8月27日（水）10:00～12:00

会 場：天沼小学校 センターコート

主 催：天沼小学校 学校運営協議会（CS）

参加者：教職員・保護者・地域関係者 約60名

1. 実施目的

本ワークショップは、保護者・教職員・地域関係者がそれぞれの立場から、子どもたちの学びや学校運営について意見交換を行う場として、毎年夏に開催している取組です。

令和7年度は、6月に開催した茶話会「教育が変わる。わたしたち大人はどう変わる？」の内容を踏まえ、社会の変化を背景に、これからの学校に求められる役割を改めて検討することを目的として実施。

保護者、教職員、地域の関係者がそれぞれの立場から多様な意見交換を行い、子どもたちへの大人の関わり方を多角的に見直すこと、また対話を通じて参加者各自が一つでも多くの気づきを持ち帰ることをゴールとしました。

2. プログラム

1. 開会挨拶
2. 茶話会の振り返り
3. 声かけミニワーク
4. 熟議
5. 共有
6. 総括

3. 開会挨拶

開会の挨拶として、学校運営協議会会長・渡部公威より、以下の挨拶が行われました。

メインテーマ「学校は何をするところ？」という問い合わせに対し、参加者それぞれの立場で「子どもたちにどのように関わっていくべきか」を検討することが最も重要であると述べられました。

また、自身が現場を離れて7年が経過したが、学校教育の中身は随分変わってきていくとし、「学校って何をするところ」と問われたときに当たり前のように思い浮かぶことが本当に全てなのかを考える時間にして欲しいと話しました。

さらに、立場が異なるからこそ、その立場を離れて、客観的に検討することで、子どもたちにとっての学校や接し方のヒントが得られれば幸いであると締めくくりました。

4. 6月茶話会の振り返り

CS委員より、6月に実施した茶話会「教育が変わる。大人はどう変わる？」で出たキーワードをもとに振り返りを行いました。

- 非認知能力（協調性、やり抜く力）の重要性
- 教師の役割変化：「教える人」から「探究を支援する人」へ
- 学びの土台：「基礎」「活用」「発展」の三段階
- 探究のプロセス：「整理・分析」の支援の重要性
- 声かけの工夫：「ちゃんと」「しっかり」ではなく具体的な言葉で伝える
- 問いかけの力：「なぜ？」「どうして？」を通して子ども自身に考えさせる

5. 声かけミニワーク

6月茶話会で話題となった「大人の声かけ」を改めて考えるため、学校や家庭の場面を描いたA3シートを用いてミニワークを行いました。

参加者は、学校や家庭での具体的な場面が描かれたA3用紙を用い、子どもへの声かけや関わり方を考えました。

各テーブルでは、子どもへの関わりを振り返りながら、

- **ステップ1**：普段の声かけ・関わり方（現状）
- **ステップ2**：子ども主体を意識した声かけ・関わり方（理想）

の2段階で記入・共有しました。

ステップ2の検討では、子どもの主体性を支える4つの視点（①自己選択・自己決定、②メタ認知、③目標設定・確認、④行動全般）を参考に、言葉かけの工夫を出し合いました。

全テーブルで活発な意見交換が行われ、多様な視点からの具体的で前向きな声かけの工夫が多数挙がり、実践的な対話の時間となりました。

6. 熟議

テーマ「学校って何をするところ？」について、3段階のステップで意見交換を実施しました。

- ステップ1：子どもの頃の学校のイメージ
- ステップ2：現在の学校の役割・現状認識
- ステップ3：これからの学校に期待する姿

全体を通じて、以下のような傾向と共通点が見られました。

1. 過去の学校像

多くのグループで、かつての学校は「行くのが当たり前」「勉強する場所」としての側面が強かった一方、友達と遊ぶ楽しみや給食など、日常生活の温かい記憶が印象に残っていると語られました。

厳しさのある時代の中でも、「先生や友達との関わりがあったから通えていた」という声が多く、学校が生活の中心にあったことがうかがえました。

2. 現在の学校像

現在の学校については、「社会性を学ぶ場」「多様な価値観を知る場」「安心して過ごせる居場所」としての側面が多く挙げられました。

子どもがルール作りに関わる機会が増え、主体的な学びが進んでいくことへの肯定的な意見が多く出ました。

一方で、学びや支援の多様化に伴い、保護者・教職員・地域が協力して支えることの重要性も共有されました。

3. 未来の学校像（大切にしたいこと）

未来に向けての理想像として、ほぼすべてのグループから「楽しくて安心できる居場所」という言葉が挙がりました。

子どもが「行きたい」と思える学校にするために、

- 自己選択・自己決定を尊重する主体的な学び
- 人との関わりを通して折り合いをつける力を育むこと
- 大人が楽しく関わる姿を見せること
- 地域とつながり、社会的自立へつなげること

といった点が重視されました。

4. 全体を通しての気づき

どのグループにも共通して、「学校は一言では言い表せない多面的な場所である」という認識が示されました。

学び・人間関係・生活のすべてを含めた“子どもが成長する場”として、「地域とつながり、未来へつながる学校」を目指す姿勢が全体に共有されました。

7. 総括

会の総括として薩摩校長より、以下の講評が行われました。

今回のテーマ『学校って何をするところか』を考えるにあたり、関連する法の規程を改めて確認すると、学校の目的や、子どもたちに求められる基本的な資質・能力に関する具体的な記述があることに言及されました。

それらを踏まえ、私的な考えであると断りつつ、学校の目指すところは「子どもたちの社会的自立」であると常々考えているとお話されました。

また、本日の各グループの話し合いも、大きく括ってみると、「子どもたちの社会的自立を見通して私たち大人が関わっていくこと」が大事なのだという考えに繋がると述べました。

最後に、今日出た話を大事にしながら、この天沼小で一緒に歩んで参りたいと述べ、謝辞を伝えました。

8. さいごに

本ワークショップでは、多様な立場の参加者が対話を通じて「学校の役割」について考え、「学校は、子どもの社会的自立と自己実現を支援する、楽しくて安心できる居場所である」という共通認識を形成することができました。

今回の熟議で出された意見や気づきは、今後の教育活動および学校運営協議会の取組でも活かしていく予定です。

(文責：天沼小学校 学校運営協議会 研修交流分科会 吉田真也)

(参考資料) 各グループの熟議共有内容

グループ1

- **過去（昔）**

「～しなければいけない」という義務的な側面が強く、勉強や登校が日課として定められていた。給食や授業なども今ほど多様ではなかったという意見も出た。

- **現在（今）**

子どもたちが安心して過ごせる、楽しく優しい学校になっている。

- **未来（大切にしたいこと）**

「キャリアと繋がる未来につながる天沼小学校」を目指す。多様な価値観との出会い、体験的な学び、人権や友達との教え合い、キャリア教育の充実、好きなこと・ものとの出会いを大切にする。

グループ2

- **過去（子どもの頃）**

学ぶことや遊ぶことを楽しみに通っていた。「毎日行くもの」という自然な習慣として学校を捉えていた。

- **現在（今）**

社会性を学ぶ場としての側面が強く、人との距離感や協調を学ぶ場所になっている。多様な子どもがいる中で意見を出し合い、合意形成を図る活動も増えている。

- **未来（これからの学校）**

地域や多様な職業の人が関わり、自己選択の機会がさらに増えていく。公教育の中で、子どもの主体性と指導のバランスをどうとるかが今後の課題となる。

グループ3

- **過去（子どもの時代）**

友達や先生に会いたくて通う、楽しい場所という意見が多くかった。

- **現在（今）**

人間関係や集団生活を学ぶ場として、子どもたち自身がルール作りに参加するようになっ

ている。主体的な学習が進み、個性や多様性が尊重され、安全で居心地の良い学校になっている。

- **未来（どんな場所であってほしいか）**

子どもの体験や記憶が大人になっても残るような場所。子どもが「行きたい」と思える学校にするために、まず大人が楽しく働く環境づくりを大切にしたい。

グループ4

- **テーマ総括**

「学校って何をするところか」は一言では言い表せない。

- **過去**

遊ぶ、友達と会う、給食を楽しむなど、生活の中で多くの思い出が生まれる場所だった。

- **現在／変遷**

経験を通して褒められたり、人とのつながりの中で自分の良さや強みを見つけられる場所になっている。

- **未来（熱気球のメタファー）**

安心できる場所であり、多様性を認め合いながら自立を支える場へ。子どもたちが抱える困りごとや不安を軽くし、自由に挑戦できるよう支援していく。

グループ5

- **過去**

楽しく遊び、時に厳しく指導を受ける環境だった。

- **現在／成長**

経験を通して学ぶ教育へと変化し、子どもたちは学年が上がるごとに自分で判断し、将来を考えられるようになっている。

- **学校の役割（大切にしたいこと）**

「自分を出せるようになる場所」であること。多様な体験を通して他者の価値観を理解し、勉強や遊びを含めた幅広い経験が将来の力になる学校でありたい。

グループ6

- **過去**

義務的な側面と、友達と遊ぶ楽しさの両方があった。

- **現在（天沼の現状）**

活気のある学校でありながら、多様な子どもが共に学ぶ環境の中で、教員と保護者が協力して支え合うことの大切さが共有された。

- **未来（これからの学校）**

「折り合いをつける力」「人間関係を学ぶ力」を育む場として、子ども一人ひとりの良さを認める声かけを意識する。自ら必要な学びを選び取り、主体的に成長できる学校が望ましい。

グループ7

- **過去（子ども時代）**

勉強やルールを学ぶ場所であり、休み時間に楽しみに通っていた。

- **現在（今）**

社会性を身につけ、自分を理解しながら人と関わる場所。大人も子どももお互いを大切にし、体験的な学びが広がっている。

- **未来（これからの学校）**

体験から学び、振り返りを通して成長する学校。表現力や発想を伸ばし、他者の思いを尊重しながら自分の意見を伝えられる力を育む。キャリア教育を通して想像力と行動力を養う。

グループ8

- **過去**

勉強、友達との遊び、給食など、生活全体を楽しむ場所だった。

- **現在**

社会に出るための準備の場として、家ではできない体験や多くの出会いがある。

- **未来（大切にしたいこと）**

「楽しくてワクワクする場所」であること。対話を大切にし、子どもが得意を見つけられるよう大人が支える。安心できる居場所づくりを重視したい。

グループ9

- **過去（昔）**

平日の行き先として、友達と関わりながら遊び、学ぶ日常の場だった。

- **現在（今）**

子どもが「遊びたい」「人と関わりたい」という気持ちで来る場所。多くの活動やルールの中で、子どもが安心して過ごせる工夫が求められている。

- **未来（これからの学校）**

昔のような「楽しさ」を大切にしつつ、「やりたいことを自分で選べる」主体的な学びを進めていく。教師は支援者・ファシリテーターとして子どもを支える。

グループ10

- **過去（緑）**

集団行動や決まりごとが多くかったが、遊びや地域とのつながりも豊かだった。

- **現在（ピンク）**

学校が地域と子どもをつなぐ役割を担い、社会に出るための基礎力を育てる場所として機能している。

- **未来（黒字／総括）**

友達や多くの大人と関わりが生まれる場所でありたい。子どもの特性に応じた多様な学びを広げながら、「楽しくて安心できる居場所」を実現することが目標。みんなが余裕を持って生活できる環境が、その基盤になる。

(参考資料) 個人振り返り内容

先生方の振り返り

今日の対話を通じて、一番印象に残った言葉や気づき	「学校ってなにをするところ？」について、自分なりの答えを一言で	これからひとりの大人として、子どもに関わるときに大切にしたいと思ったこと	天沼小として「これを大切にするといい」と思ったこと
多様性のある価値観 社会的 自立	社会的自立を目指す場	子ども一人一人を受け止める事	話し合い
社会的自立	地域とつながる、未来につながる天沼小	子供の解決する機会を奪わない	相手の想いを受け入れる
多様性への対応	社会への通過点	対話をして、その子の思いや良さを引き出す	地域とのつながり
自立	人間力を育むところ	子どもの思いを大切にすること	お互いに認め合い、折り合いをつける力を育むこと
心理的安全性	子どもたちの社会的自立を見通してかかわるところ	導く < 伴走する	子どもの主体性や当事者性を育てるための指導
大人が楽しく働くことが子どもたちの楽しさにも繋がる	ワクワクするところ！	まずは自分自身が何事も楽しむ気持ちで関わる！	子どもたちの「やりたい！」気持ちを大切にしたい
意欲をもつことは、大切！	人と関わるところ	気持ちを受けとめる	子ども一人一人に真面目に向き合うこと
絵を見て付箋で自分の考えを書く活動が印象に残った	社会で生きていくために必要なことを楽しく学ぶところ	1人の人として丁寧に関わる。 個性を尊重する	1人1人の個性を尊重して関わる
大人の職場環境も大切に	遊びが学びになる	気持ちを聞く	安全に楽しく生活する
多様性	色々な人と出会うところ	自立、自己選択、自己決定	多様性に寄り添うこと、認めること
様々な立場から、教育について意見交流することはいいことだと改めて思った	「人と関わりながら生きること」を学ぶところ	子どもも立派な一人の人間であること	より良い授業、学校を目指して日々研鑽すること
学校はワクワクするところでありたい	人生を楽しめる人になる基盤を作ること	子ども大人関係なく、ひとりの ^{人間として} 相手を尊重すること	「ワクワク」するとともに、やる価値のある学習活動を計画実施していくこと
希望	未来をつくる	未来の宝物	信用
得意なことを見つける	自分を知るところ！	子どもたちの経験をすべて成長につなげていけるような言葉かけ	大人も子どもも通いたくなる学校

先生以外の参加者の振り返り

今日の対話を通じて、一番印象に残った言葉や気づき	「学校ってなにをするところ？」について、自分なりの答えを一言で	これからひとりの大人として、子どもに関わるときに大切にしたいと思ったこと	天沼小として「これを大切にするといい」と思ったこと
サマーワークショップって、やっぱりスゴイ場	他者に優しくなる所	子供の力を信じる事	今回のテーマに対して、天沼小の卒業生や天沼小の高学年の子も同席して、意見を聞けたら面白いかなと思いました。
これから天沼小学校を学校と地域で作っていくこと	社会的自立	孤立化を防ぐ	自主性
いつの時代も学校は楽しい場所であるべきだということ	人と人が成長する楽しい場所！	言葉の選び方	対話(様々な意見や考え方があることを体験すること)
折り合いをつける力	学習活動を通して人との関わり方を学ぶところ	本人が考えて選べるように関わること	大人達の交流機会。大人のゆとり。
未来の学校を考える。一緒に学校運営に取り組んでいく。	地域と共にキャリア教育などを展開し、子ども達の創造力、活動力をアップするところ、	子どもの自発性、自主性を育くむこと。	体験学習。 先にある目標に気づくことで、自己評価し次の意欲、向上心を引き出している。
注意すると激昂する児童には「困っているんだね」と話しかける。	たくさんの「楽しい！」をみつけることろ	自分の都合上優先ではなく、子供の視点にたつ	学校でしか得られない「生の対話」(先生と、友達と、地域の方と)
学校で子どもと地域がつながることができる。	子どもと地域がつながる基地	挨拶、声掛け	子どもの主体性を發揮できる、そしてほっとできる環境づくり